



岡本勘造終

芳川俊雄関

夜嵐の鬼奴花芭仇夢
五番大尾

金松文庫

五編下

五編中

五編上

2689
15

2689
14

2689
13





よあしれおきぬいさつあつり
夜嵐の鬼奴花酒仇夢
五編大尾

五編上

14
2689
13



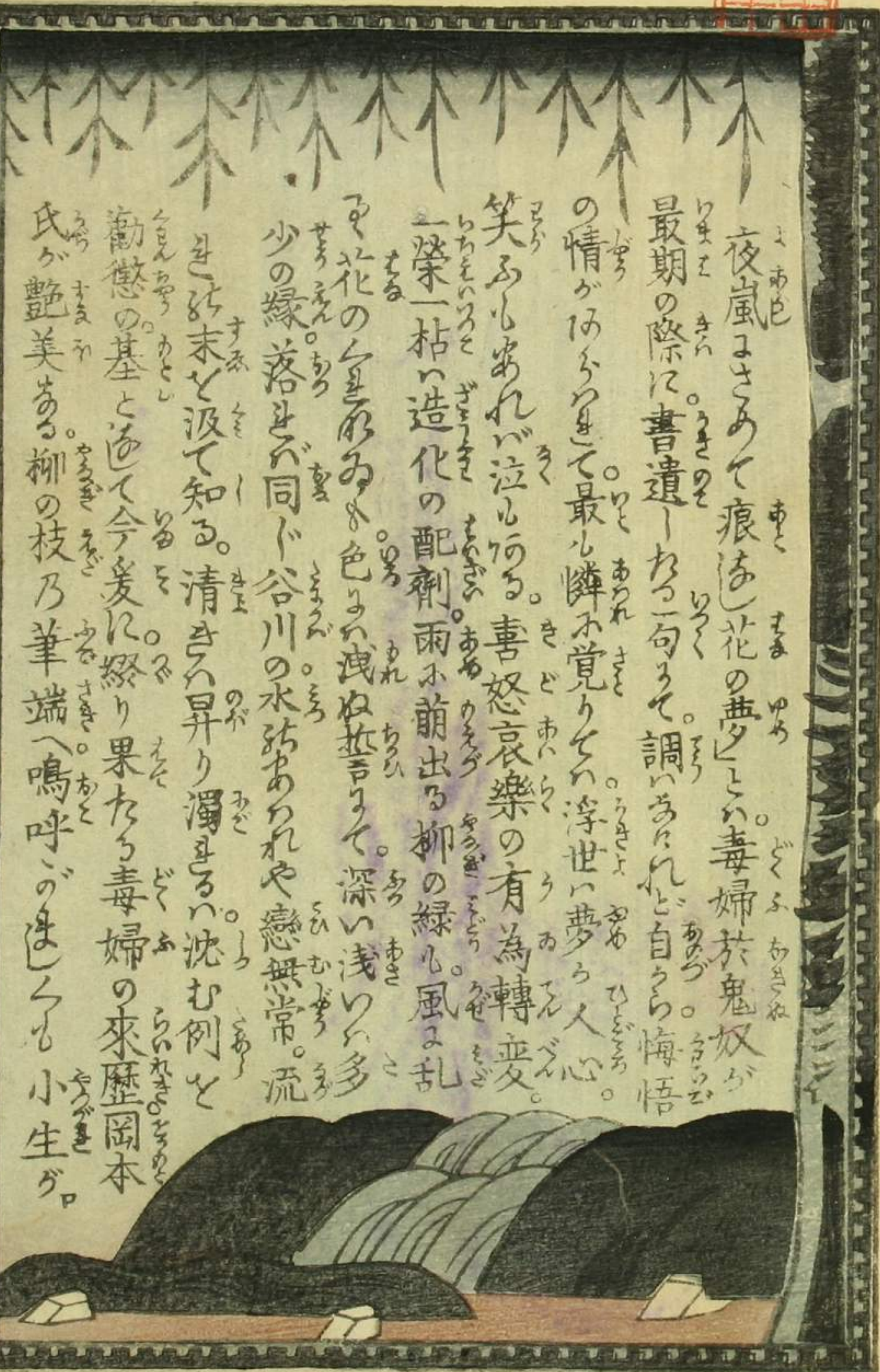
夜嵐はさめて痕は花の夢といふ毒婦於鬼奴が

最期の際に書遣したる句にて調ひなれど自らの悔悟

の情がほろりて最も憐れ覚りての浮世の夢う人

笑ふもあれは泣くも喜怒哀樂の有為轉變

一榮一枯造化の配劑雨小前出る柳の緑も風も乱



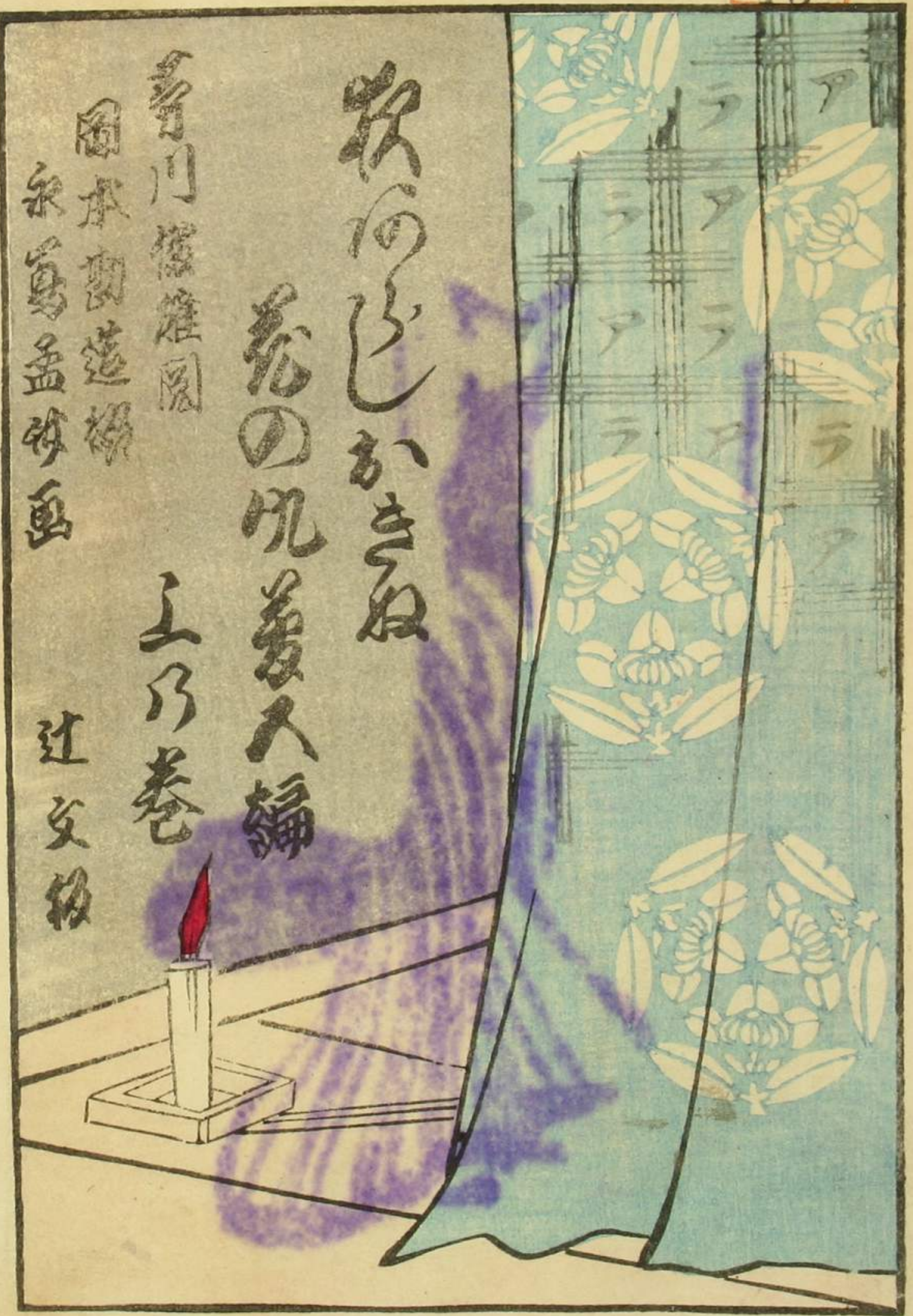
少の縁落ると同じ谷川の水枯あられや戀無常流
きほ末と汲て知る清き昇り濁まるい沈む例と
勸懲の基とほて今爰に終り果たる毒婦の來歴岡本
氏が艶美ある柳の枝乃筆端へ嗚呼のほろり小生

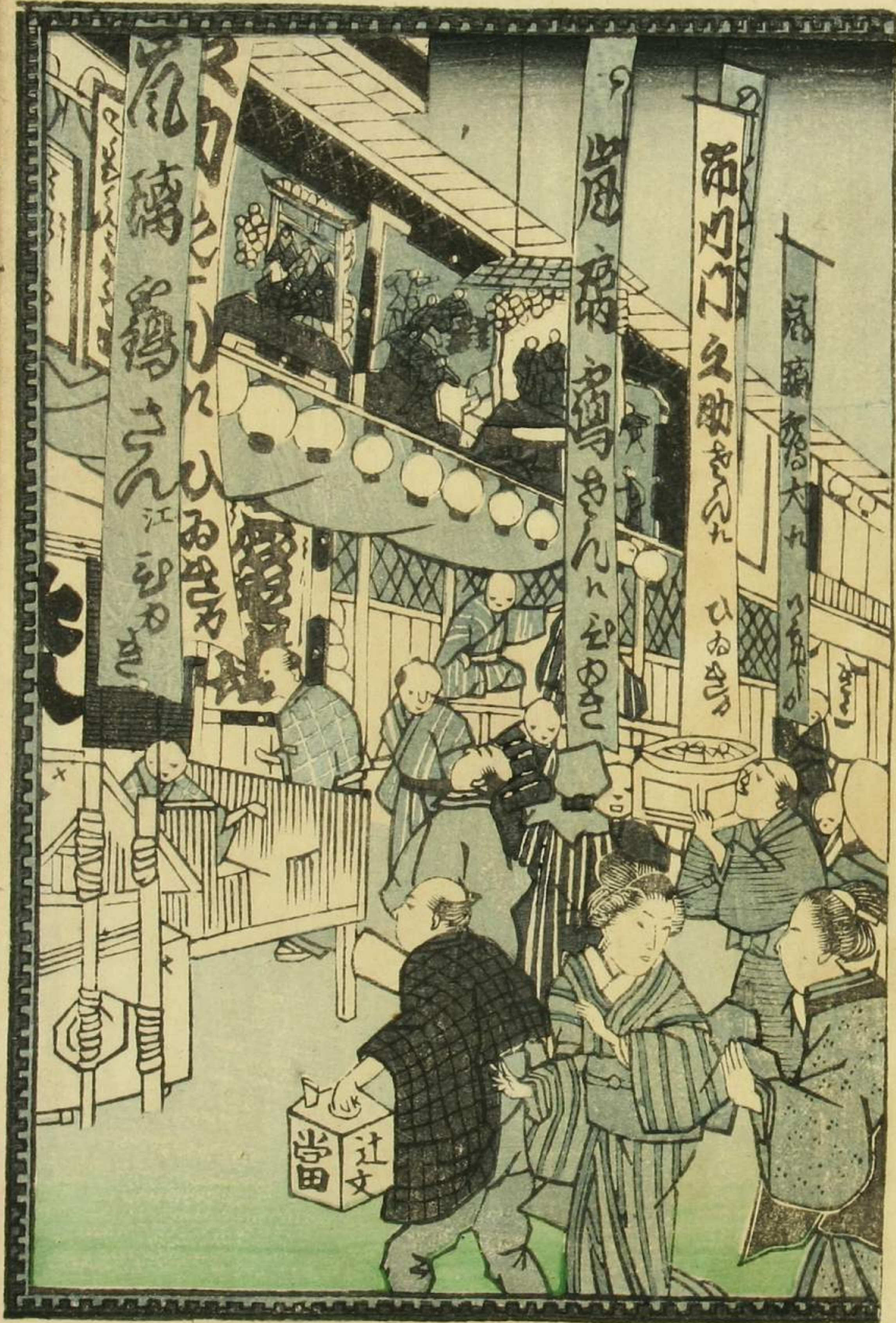
夜嵐五ノ上

夜嵐はさめて痕は花の夢といふ毒婦於鬼奴が
最期の際に書遣したる句にて調ひなれど自らの悔悟
の情がほろりて最も憐れ覚りての浮世の夢う人
笑ふもあれは泣くも喜怒哀樂の有為轉變
一榮一枯造化の配劑雨小前出る柳の緑も風も乱

青川橋渡図
岡本園造繪
糸島孟妙画

上乃卷
江文後





猿若町 三座の場 劇之場 榮之場 圖





あまの
おきぬさうぬ
すません
おきぬさうぬ
すません
おきぬさうぬ
すません
おきぬさうぬ
すません



あまの
おきぬさうぬ
すません
おきぬさうぬ
すません
おきぬさうぬ
すません
おきぬさうぬ
すません



小雀 痛
 雨の掃夜風を
 困る原風の折也
 六本 主人まふも色

☒ 髪
 さへもき
 巾着き
 これの主人
 服をうめて
 裏をうめて
 をおとさう
 掃夜風を
 掃夜風を
 と何やうな
 身法とよめる
 元好し合平が
 髪をとぎしおま



これト身法とまう
 中ノ徳とまう
 目れぬとまう
 金のけ
 支て下さう
 作る事
 あきぬ
 心
 小雀
 庭
 持

その後
 小雀
 の情
 切
 松
 庭
 山
 探
 探

☒ 髪
 さへもき
 巾着き
 これの主人
 服をうめて
 裏をうめて
 をおとさう
 掃夜風を
 掃夜風を
 と何やうな
 身法とよめる
 元好し合平が
 髪をとぎしおま





芳川後雄関

長山

五編中

永島孟英

A14
2689
14

夜山屋にさうく鴨鴨が宅へ入るを人々
 裏うら入るう今日のお客もやあるまゝと行なふ
 通るは御儀もくも鴨鴨のまゝ
 け経中の云々と
 さるとおきぬ
 岡路らげ揚
 鴨の掃へ
 あ〜
 親方
 さんこの
 妻とお嫁ひあつてり
 末てもなるをさうりの曲があの終え
 にはさういさるほど終もあひます



又由うあふふ飯
 切換由利
 さらけお茶
 と昔よき
 由きよま
 きゆきの女
 又よめさす毒
 心は持を毒
 鴨鴨小を
 くらね本巻とに五粒
 めね二更打くも御
 まて飛一破折を
 つろひ著本

流るるのいゝ物とおひされへ何事なげ後あはぬ
 妻もいづれそを死ぬゆへにぬも圓と利ま
 の別刀丸出ー既お初よとんへねアヤと
 鴨鴨の髪あひてけまをさうりあはぬ
 かつそる事とあふのまうま死んでお知
 実もありおせんマアくお信と別刀を
 取あはてま殺まてふあてあはる事
 あらば天保のまはくよ是迄通り
 ますと四方傾博の遊ーさあきと知れ
 西もさうて又落が縁のうろが左のあて
 悲ひの中天さくむあ後のおまはあけ
 へるはさうと田ん草もあはぬ
 仕遠くとあ〜と鳥羽のあはあはせが



不残物にてさひ
 黄條のさ〜
 交て金平
 け〜と〜と〜
 吐〜の〜
 昔〜の〜
 飲〜の〜
 つ〜の〜
 う〜の〜
 へ〜の〜
 鴨鴨が〜
 へ〜



二瓶の毒茶と申すは
 中一揷を白濁水
 へそとて金平の
 側へ持ゆれば何と
 あずくも味
 がうのとておあず
 ぬれ却て病ひのこめぬも
 悪の丁を黄やうたぬと
 甘くお煮らへばこめぬ一はあが
 れと背渡りまするさきまの
 いとも細やううらの村よ

八日の外七八日を緩小
 死する
 後子
 の首
 今一揷を
 飲せんと
 白濁をそま
 せんかき
 小令平が権
 えん進もうは苦の薬を
 いやがら別小下さるる故あく
 お医者か別小下さるる故あく



おと
 名をこめぬ金平のま
 うとまをせぬとめぬ
 ん地よめぬ
 こゆ候に
 がさ夜子の
 切
 以
 海
 ずの
 此れ
 身
 のて
 疲
 吉

吉
 一
 正
 あれと金平
 が
 小
 毒
 只
 ば
 の
 さ
 十二日



つぎ 吾はあつたは世のなほりとぞ大に
 おれはあひまう子孫へはと全平の盛
 と極楽死の世も眼のあちり頼りあり
 目色もさあて七情八術の定まら
 今もた名物とものすも息のあつた
 毒婦のまうわく次方にもてる
 涙のあつたの初夜力種をえり



あまの
 好悪
 果
 とあつた
 死の音
 死の音
 死の音



あつた
 中
 並
 悔
 有
 志
 先
 小
 送
 ね
 尚



岡本勘造綴



金松文庫

五編下

214
2689
15

合平と毒害世へは後お河のゆて初めうお後世の

申すゆとのひあはぬのいひまよ

賢合のまねとを思を知つ

て作持進罪と事

てうまをへまふ方相一也

果るううあふぬた

本東府へ還りありの

一屋生味と受て合平の丸まの

仁助とて指さひゆ伝文とを扱へる

事近も由快世と又もまふ條不

教者之を拘引して事の類を想へ

小の面がうま小あうらひの



○形にぬ

○まね

あふぬの

死とてみ教へあ

の中へ二ツの命

とて

ても

あふぬ

あふぬ

あふぬ

あふぬ

あふぬ

△お小あむ

柿色の衣へ後よ

本田よりあ

とて

△

△

ら 聖一とていふら

あひゆ伝文と扱へて科とて扱

刑に而せられおとをな

あひおひのりあて何とて免

瑞猪の毒害世の事と知りま

殖へもせを控へて科とて

此二年まじやし後と

懲後不送られいふゆえ

虚弱を治優の事

あふぬのいひまよ

消滅せんまふあふぬ

償りて功徳を積ん

病人とありぬあふ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ



△受て市川の流

その引幕の

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

さふんと付られ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

あふぬのいひまよ

ついでに

うぶを年

の十月八日

の夜あき

ぬい

獄

や

で

安くとおふひに耳

男ととを産

一母子とも

何の残りも

虞花疏の上

うぶを母子



丸帯燭をく懐ひ下

たる悪徳の舞よりぬ人の様ひ

今年丁亥二十一年より若

き親父由本く由ふひ

結し由本 まこととあひを凄りりき

子同刻をと獄年上役がされおき

いせも日るひ色白海へおて判

の中渡しとつひおまをほて

け首へちりて候と

扱ひまお首と

よお上のおま

悪徳

る死



の別と兼ておむひらきとて又とハ勝徳が店受人多何来がひ死ぬり

カ松と入へけてお竹の堀り或もあへ里見おけけ一由本乳も

るく育つとゆふと獄年の内へ逃へてまおきあか世の中

あひをともなるおれはまてはまおらおれとておひま一が

有法の悪業を補まてあまののい獄をあてま

あてとて有法のつとの事おまおまおまの情を

あておまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま

幸い治治の五ひまおまおまおまおまおまおまおまおま

まてく獄年入りの中おの風の筆に何

とねらおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま

年忌もおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま

て強き今日か世の名残とまおまおまおまおまおまおま

とほま一時のお小神の結酒の乳を為の之枝是橋子の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

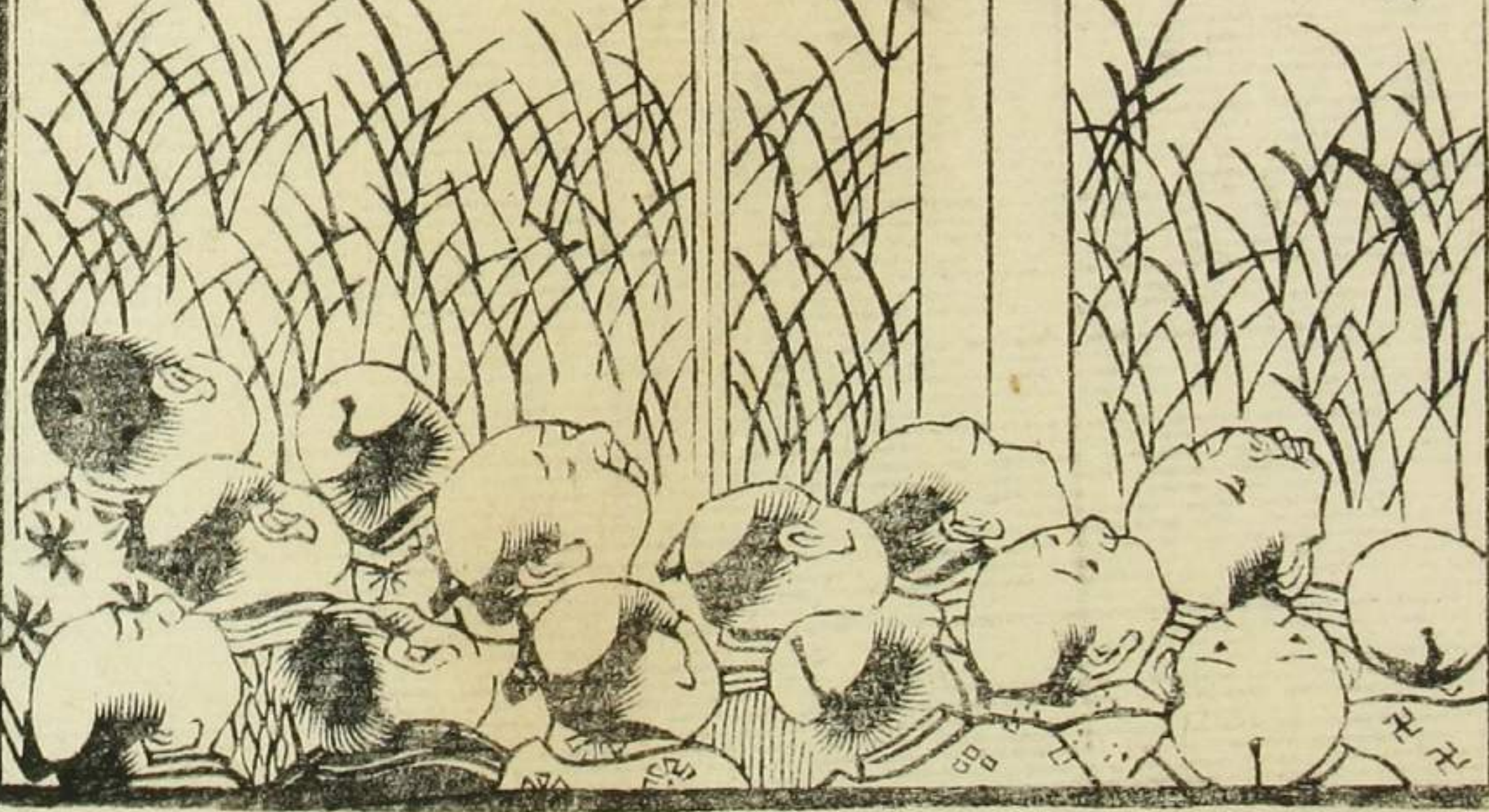
の



犬も門の前のお仕立と
 此れとて今もあまのまじり
 事と仕立てもおのふぬおまぬ
 うけつゝあまのふれあまのふれ
 先ききの縁故あまのふれ
 付ておのふれとて今もあまのまじり
 犬も門の前のお仕立と
 此れとて今もあまのまじり
 事と仕立てもおのふぬおまぬ
 うけつゝあまのふれあまのふれ
 先ききの縁故あまのふれ
 付ておのふれとて今もあまのまじり

犬も門の前のお仕立と
 此れとて今もあまのまじり
 事と仕立てもおのふぬおまぬ
 うけつゝあまのふれあまのふれ
 先ききの縁故あまのふれ
 付ておのふれとて今もあまのまじり

犬も門の前のお仕立と
 此れとて今もあまのまじり
 事と仕立てもおのふぬおまぬ
 うけつゝあまのふれあまのふれ
 先ききの縁故あまのふれ
 付ておのふれとて今もあまのまじり



犬も門の前のお仕立と
 此れとて今もあまのまじり
 事と仕立てもおのふぬおまぬ
 うけつゝあまのふれあまのふれ
 先ききの縁故あまのふれ
 付ておのふれとて今もあまのまじり

犬も門の前のお仕立と

犬も門の前のお仕立と
 此れとて今もあまのまじり
 事と仕立てもおのふぬおまぬ
 うけつゝあまのふれあまのふれ
 先ききの縁故あまのふれ
 付ておのふれとて今もあまのまじり



○田舎者も世に和と稱するを好むはと
何の来由も中々あるを著しけるは仕業の
場へ往とてめを殺すて殺すは身を
見張りの物を殊務由亦後世に
しん現在をのびて文字を人の出しと
全てもあるありてある毒婦借掛ま
○以外ある一子力松の中南をたハ
その成り小文うま若の物語りよう
竹本があやの娘をたかて源を結ぶ
あはれ陽陽が教免よりうて後市川
格十郎と改名するまでゆきと
吐しに接へた終り糸をたす
あやの物語りのはははははは

橋野編

銅版開化玉編全

島田豊三郎編

開化女用文章全

深寄延房編輯

近世紀聞

初編より
九編迄出版
以下追々発売

田島象二編輯
高業
小学

取引要文全

深寄延房編輯

義烈回天百首全

金花七變化

魯文作
國貞画

西野古海編輯

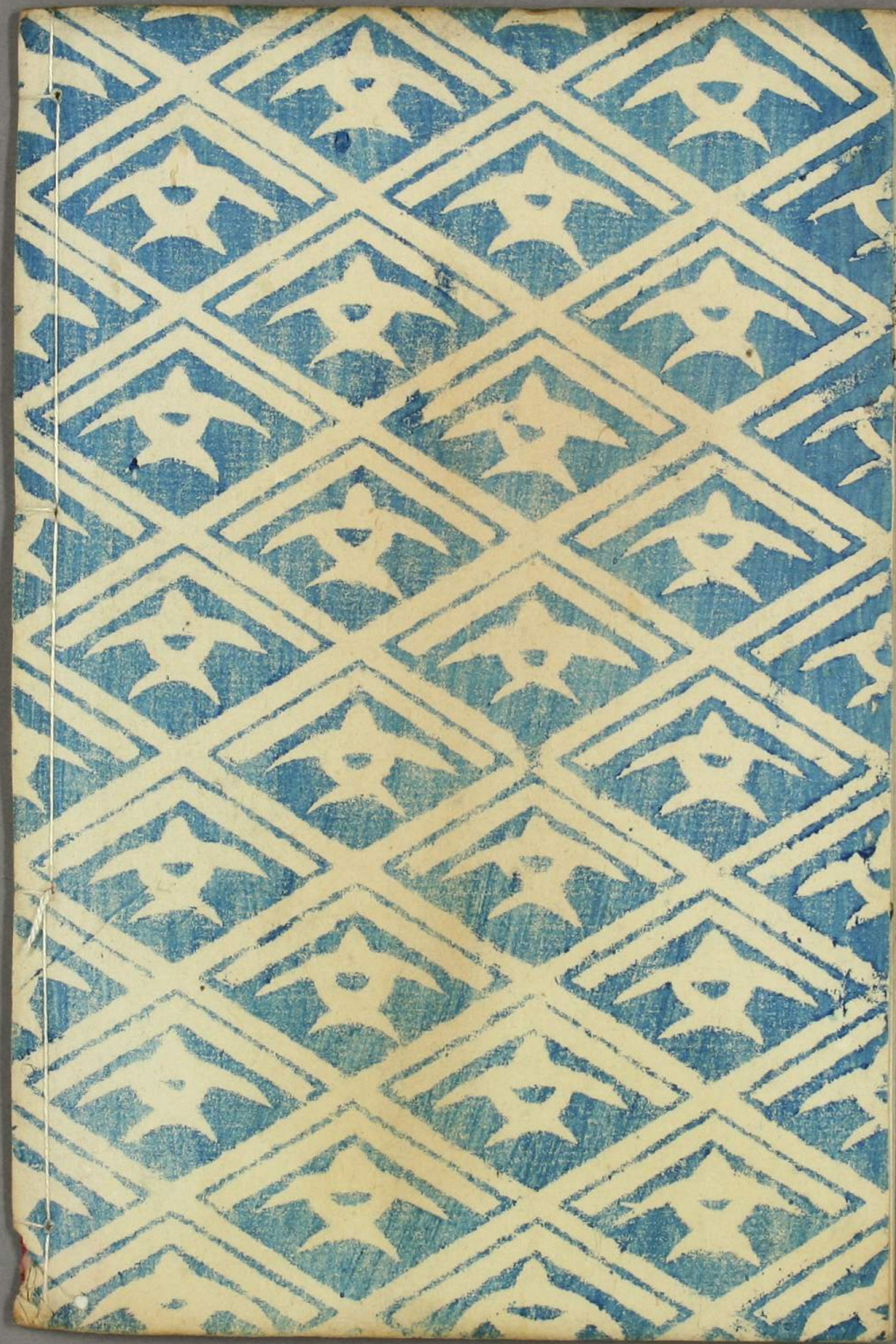
新撰 東京全圖全

濡衣女鳴神

秀賀作
國貞画

文錦繪問屋

出版部 明治十一年十一月六日算六天區一小區深川富岡口前町六十番地
編輯人 岡本勲 造
筆天区一丁目四番地
出版人 辻岡文助



ふりかきぬとあのみかきぬ

櫻木園遊記

分大庵大尾

芳川後雄園

岡本勘造作

永島孟沙画



金松

へ14
2689
13-15